

工学部建築学科建築専攻 学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

工学部建築学科は、建築および都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築・インテリアおよび土木・環境分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

2 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2. 1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

建築専攻の専門力の育成とは、次のような内容の修得を目指すものです。

- (1)地震などの自然界の脅威に対し、建築物の機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計を行うための手法
- (2)建築物の品質・耐久性を満足させるための使い方や、建築物の効率的な作り方
- (3)建築設計に必要な知識体系
- (4)建築造形の基礎と建築の歴史や建築デザインの論理
- (5)建築環境工学諸分野の原理と建築設備の活用法
- (6)環境負荷の低減や、時間軸を考慮した付加価値の創出、建築文化の継承を行うための手法

2. 2 学位授与の方針

建築学科建築専攻では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。
8. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。

(専門力)

9. 荷重や、建築物がそれを支える仕組みを理解し、地震などの自然界の脅威に抵抗し、機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計ができる。
10. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および

施工方法を考えることができる。

- 1 1. 建築の設計を理解し、必要な知識体系を身につけている。
- 1 2. 建築造形の基礎を身に付け、建築デザインの論理を理解している。さらに文化遺産としての建築の価値を歴史的背景と共に理解している。
- 1 3. 快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用できる。
- 1 4. 持続可能な社会システムのあり方を理解し、環境負荷の低減や、時間軸を考慮した付加価値の創出、建築文化の継承を行うための手法を身につけている。
- 1 5. 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組むことができる。
- 1 6. 状況に応じて知識を多角的に展開させることができる。
- 1 7. 技術的課題に対して誠実かつ真摯な態度で臨むことができる。
- 1 8. 地域社会のなかで信頼を得ながら技術を適用していくことができる。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。建築学科建築専攻の標準教育プログラムは、以下の(1)～(9)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(3) 工学の基礎としての数学、自然科学を活用する力を身に付けることができる

工学のさまざまな分野で、多くの自然科学の知識が用いられます。特に、力と動きの関係、熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性と、自然環境を理解するために化学が必要となります。また工学の各分野、物理学、化学で用いられる数式を理解し、応用するために数学が必要となります。専門基礎科目群においては、これらの、工学系分野の基礎となる数学、物理学、化学を学びます。それぞれの専門分野において、既存の知識を身につけるだけでなく、創造的な仕事をする上でも、これらの基礎知識がしっかり身に付いていることが重要です。

(専門力)

(4) 建築物に働く荷重や、建築物がそれを支える仕組みを理解し、地震などの自然界の脅威に抵抗し、機能の保全と安全性の確保をみたくする設計を行うための手法を修得する

建築物がその機能を維持し、人びとが安心して使用できるようにするためには、重力を始め、自然から受けるさまざまな力に対して、壊れることなく安全であることが要求されます。そのためには、建築物の骨格となる構造システムが力を受けたときに、内部にどのような力が生じ、またどのような変形が生じるかを、数学や物理学(力学)を基礎とした具体的な計算により、あらかじめ予想しておかなければなりません。設計者には、常時支えている荷重はもとより、地震や風などによってもたらされる一過的で大きな荷重に対しても、建築物が十分な性能をもっているということを明確に示し、かつ説明する能力が求められます。このことから、建築構造物を適切にモデル化して解析を行い、技術者として正しい工学的判断を下すために必要な理論を修得する必要があります。

(5) 建築物に用いられる材料の性質を理解し、建物の品質・耐久性を満足させるための使い方を修得するとともに、建物の効率的な作り方についても修得する

木、鉄、コンクリート、ガラスなどといった建築物をつくるのに欠かせない材料の性質を理解し、適切な使い方を学ぶことが必要です。材料にはそれ自体のもっているさまざまな特徴があり、これを生かして使うことが必要です。さらには、地球環境や将来のことを考えれば、丈夫で長持ちのする建築物をつくる必要があります。これには、適切な材料の選択がもつとも重要であるといっても過言ではありません。

しかし、材料の選択が適切であっても、良い建物の作り方が伴わないと、全体的に優れた建築物はできません。このため、建築物に用いられる材料の適切な選択と、それを用いた効率的な施工法を併せて知ることが必要です。

(6) 建築設計の進め方を体験学習するとともに、建築設計に必要な知識体系を修得する

建築設計は、さまざまな知識と自らの創造力を駆使し、求められる建築を図面化できることが必要です。そのために、建築と都市の計画学および建築法規など建築設計作業を遂行するために必要とされる知識を身につける必要があります。また、建築設計作業を行うためには、表現できる力を身につけることも必要です。そのために建築図面の書き方を修得する建築図法を学び、建築設計の課題を通じて技術、創造力を向上させていくことが必要です。

(7) 実技をとおして建築造形の基礎を修得し、さらに建築の歴史や建築デザインの論理を修得する

建築は美しくあらねばなりません。美しい建物を実現するためには、建築を含めた造形芸術全般に関する美的な感覚の鍛錬が必要です。

しかし、建築の美は、絵画や彫刻のように、芸術家が自らの心の内にある情念を何物にもとらわれずに自由に表現した美とは異なります。なぜならば、建築はそれを実現する技術と無関係にはありえませんし、それが建てられる土地の気候風土や伝統、文化、生活様式とも無関係には存在しえないからです。このことを十分に理解するためには、建築のもつ多様な表現を、技術との関連において、歴史的な視野のなかで概観することが必要不可欠です。

また建築の美は、文化や生活様式の反映なので、それを具体的な形として反映させるためには、論理的な思考が必要です。具体的な作品の分析をとおして、デザインの論理を学ぶ必要があります。

(8) 快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備の活用法を修得する

巧みな空間構成と見事な意匠とで創造された建築は、その空間を体験した人に必ず快適な印象を与えるでしょうか？ 答はNo!です。例えば、吹き抜けの存在により冬は暖房してもなかなか室温が上昇しない。デザインのために窓面積を小さくしたため日中でも人工照明なしでは細かい字が読みづらい。大胆なトップライトを採用したが、夏の暑さと、冬期暖房時の結露には参った。こんな事実こそ、建築環境工学を学ぶ意義があります。

建築環境工学の目的はいったってシンプルで、人間が建築空間で快適に過ごせて心の安らぎが得られ、作業がストレスなくはかど

るようにするにはどういふことを考えたらいいのか、ということです。ただ、そのためには非常に多岐にわたる勉強が必要となってきます。例えば大きなオフィス空間を想像してみてください。その天井にはある一定の間隔で、照明器具と空調の吹き出し口があります。人工的なものに頼らないと快適な作業空間はなかなか創り出せないようです。空調ばかりでなく、給排水、電気、消防設備などについてもその概要を学ぶ必要があります。

人間は自らの環境を快適にしたいがために、逆に環境からも問題を投げかけられています。地球温暖化、ライフサイクル、CO2といったことばは、現在、未来を語るのに必須なキーワードです。建築環境工学では地球の環境問題についても考える必要があります。

(9) 持続可能な社会システムのあり方を理解し、環境負荷の低減や、時間軸を考慮した付加価値の創出、建築文化の継承を行うための手法を修得する

昨今、サステナブルな社会の構築が叫ばれています。これは、持続循環型の社会システムへの転換を意味します。このことは建築に携わる者においても大きな問題であり、従来、資源を浪費し、多くの廃棄物を生み出してきた建設産業の在り方が問われています。材料の使い方や生産システムには環境負荷低減と維持・保全の視点を取り入れる必要があります。また、建築物の設計においては、経営計画にまで踏み込んだ企画提案型リニューアルなどによって建築物の価値の向上を図るなど、建築を経営資源として有効に活用するための施設の管理手法も必要になってきます。さらに、文化遺産や文化財として都市と建築を捉え、その現代的意味や継承のあり方を考えるとともに、良質な社会資本の保全・運営にあたることにより、持続可能な社会を築いていく方法を学ぶ必要があります。これらのいずれにも共通することは、時間軸を考慮して建築を捉えていくということです。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

第3章で説明した標準教育プログラムは、4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を示したものですので、皆さんが学修を進めていくためには、学修の達成に必要な授業科目が記された教育課程が必要です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、標準教育プログラムに基づく教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

以下にそれぞれの授業科目の授業内容および達成目標について説明します。

4 年 次	人間科学科目群	卒業研究	卒業研究 セミナ1(6期)、2(7期)	自由科目
3 年 次	日本文学A、B 外国文学A、B 哲学A、B 文化人類学A、B 歴史学A、B 心理学A、B 教育原理 教育心理学 政治学A、B 経済学A、B 法学A、B 社会学A、B 社会調査の方法A、B 現代社会学A、B 教育社会学 健康科学A、B 認知科学A、B 環境科学A、B 自然科学概論A、B 生物学A、B 地球科学A、B リベラルアーツ特別講義 リベラルアーツ実践演習A、B 教養総合講座A、B	卒業研究 展開科目 【エンジニアリング系】 建築物の構造システムを適切に設計するために必要な構造・材料学の応用法、施工・管理の実際に役立つ技術や知識を習得します。 維持・保全工学 振動と塑性解析 構造設計演習 鉄筋コンクリート構造演習 ★建築測量学同実習 ☆建築生産1、2 カとデザイン (☆印は選択必修)	展開科目 【デザイン系】 機能的にも造形的にも優れた建築物を設計するための計画理論やデザインの論理、快適な空間の提供と環境問題の解決に必要な環境工学の知識を習得し、併せてこれらの具現化に必要な表現能力を養います。 建築設計4、5 建築デザイン論 都市計画 行動空間学 空間文化論 インターンシップ 建築企画論 まちづくり論 建築デザイン史 環境評価演習 環境心理学	教職関連科目です。卒業に必要な卒業単位に含まれません。 幾何学1、2 数理統計学1、2 応用解析1、2、3、4 線形代数3 代数系入門 現代物理学1、2 職業指導1、2 中国語入門1、2
2 年 次	ファースト・イヤー・セミナ 資格英語1、2 英語スキル1、2、3、4 実践英語1、2 健康科学演習A、B	専門基礎科目群 【自然科学教育科目】 化学1、2 基礎物理A、B 線形代数1、2 【工学系基礎教育科目】 建築基礎数理1、2 力学1、2、3 数学基礎 解析学1、2、3 常微分方程式	基幹科目 建築物の施工及び設計を担う技術者に必要とされる構造、材料、計画、デザイン、環境の各学問分野の基礎的事項を習得します。 【必修科目】 建築・インテリア図法実習1、2 建築計画1、2 建築遺産A、B 建築設備 建築材料 構造力学1、2 コンクリート系構造 建築・インテリア入門セミナ 建築設計1、2、3 建築法規 環境工学1、2、3 建築構法 カと形演習 鋼構造 ★構造・材料実験	専門基礎科目 【情報系教育科目】 情報リテラシ 建築CAD1、2 建築統計処理 建築プレゼンテーション演習 コンピュータを使って、データを正確に解析し、必要な情報を引き出してまとめ、情報発信できる能力を養成します。
1 年 次	社会・自然・人間と科学技術とを調和させるための幅広い知識を修得し、技術者に必要な教養を身につけます。	数学等の基礎知識を学び、基幹科目と展開科目を容易に理解できるための基礎力を身につけます。	【選択科目】 造形基礎実習 建築環境材料 骨組の解析法 建築デザイン基礎実習 建築の仕組み	自由科目 人間科学科目 基礎英語セミナ 基礎数学セミナ 基礎理科セミナ 大学での学習を始めるための基礎を固める科目です。卒業研究の開始要件になります。

図1：建築学科建築専攻の教育課程の概念図

4.1 人間科学科目群

(1)教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ(First Year Seminar、略してFYS、初年次セミナ)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「**学習技法 (スタディ・スキルズ)**」を習得してもらう科目です。いわば「**大学での学び方**」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをすることにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

②外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思われるかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語 1・2」と「英語スキル 1・2」、2年次には「英語スキル 3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語 1・2(資格コース)」、「実践英語 1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとしても)運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④基礎英語セミナー

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3 年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4 年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含む A グループと B グループから成り立っています。なかでも B グループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与えることができるようにと工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるようにと、これが何を措いても本科科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」とそれと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、B グループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは 21 世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくと同時に、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後は AI(人工知能)や IoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められていくのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2 年次、3 年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングや PBL(問題・課題解決型授業)を意識した少数科目を開講しています。

大学での勉強は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところ楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群 B グループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群

専門基礎科目群において学習する教育内容および学修到達目標について説明します。図-2 には、専門基礎科目群のカリキュラム・フローチャートが示してあります。

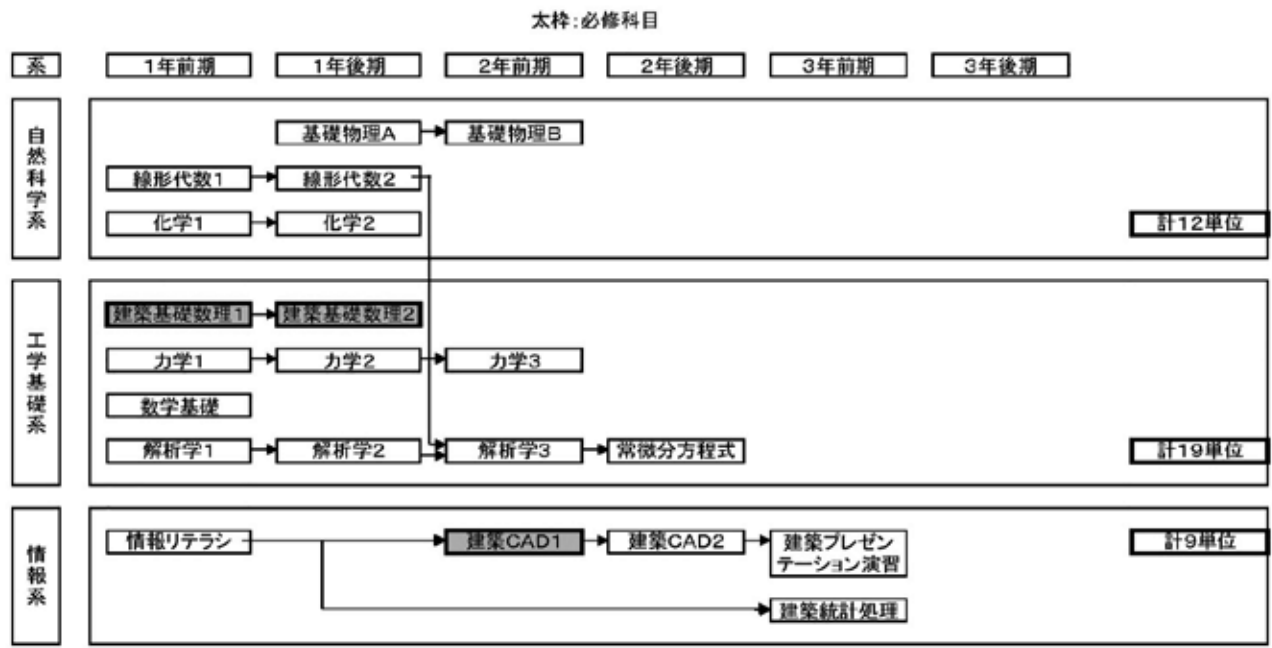


図 2 : 専門基礎科目群のフローチャート

(1) 自然科学系

a. 教育内容

本学の学位授与の方針にあるように、豊かな教養を身につけ、豊かな創造力を身につけるためには、それぞれの専門分野にとらわれずに幅広い自然科学的なものの見方、考え方を修得することが大切です。そのために自然科学系の科目として、数学関係 2 科目、物理関係 2 科目、化学関係 2 科目が編成されています。それぞれの教育内容は、次のとおりです。

ア [数学関係科目](線形代数1, 線形代数2)

線形代数1と線形代数2では、2つのものの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となる「比例する」という関係を多くのものの間の関係に拡張した線形性と呼ばれる考え方について学びます。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会学等の社会科学においても重要な、2つ以上のものの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

イ [物理関係科目](基礎物理A, 基礎物理B)

ここでは、高校の物理の復習から始めて、ベクトルと微分積分を使った大学の物理へ進みます。基礎物理Aでは、電磁気学の基礎事項を学びます。電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること、電子の流れが電流であることなど、基本的な自然界の姿を学びます。さらに、電場(電界)や磁場(磁界)といった『場』という概念を学びます。基礎物理Bでは、熱力学の基礎を学びます。熱の微視的な理解、つまり物質の構成要素(原子や分子など)の熱振動のエネルギーとして熱が理解できることを学びます。さらに、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則などを学びます。なお、電磁気学(基礎物理A)も熱力学(基礎物理B)も、力学の考え方を応用する場面が随所に出てきます。電磁気学や熱力学を学ぶ前に、力学を学んでおく必要があります。

ウ [化学関係科目](化学1, 化学2)

工科系の学生にとって物質についての基礎知識は不可欠なものです。化学1では物質の構成要素である原子、分子そのものについて学習します。化学2では、それらが集団になったときに現れる性質、挙動が学習内容です。

② 学修到達目標

自然科学系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(2) 工学基礎系

① 教育内容

工学は応用科学であり、基礎科学である自然科学とは異なる学問分野ではありますが、工学の色々な部分においては、自然科学の基本原則がいたるところで使われています。したがって、本学の学位授与方針にあるように確かな専門性を身につけるために、皆さんは工学を学修する上で必要となる自然科学(特に、数学・物理・化学)の基礎学力を高めなければなりません。工学基礎系の科目は、これにこたえることを目的として設けられています。工学基礎系の科目は、数学関係 5 科目、物理関係 3 科目、数理関係 2 科目で編成されています。それぞれの教育内容は、次の通りです。

ア [数学関係科目](数学基礎、解析学1、解析学2、解析学3、常微分方程式)

工学基礎系の数学では特に、近代科学技術文明の基礎とも言えるニュートン、ライプニッツに始まる微分積分学を、段階を追って学習していきます。変化の割合を表す微分法と、面積や体積を求める積分法とがどこでつながるのか。無限とか極限とかいう言葉がよく出てくるが、どういう意味なのか。こういったことをしっかり考えて学習することにより、微分積分学の基本的な考え方が身につく、数式とその表すものとの関係がわかるようになります。さらに常微分方程式を学ぶと、変化の割合がみたす式より将来を予測することができるようになり、自然の中に存在する因果関係(何が原因で何が結果か)にも目が向かうようになるでしょう。

また高等学校までの数学教育の多様化に対応し、他の数学系科目および自然科学、工学系専門科目への準備となる科目として、数学基礎を開講しています。この科目の受講対象者は入学時に実施する学力試験の結果に基づいて決定され、受講対象者には1年前期に解析学1に先んじて、特に大学での専門教育に直結する基礎的な数学を精選して教授します。

イ [物理関係科目](建築基礎数理1、建築基礎数理2、力学1、力学2、力学3)

建築学を学ぶ上で最小限必要となる数学・物理・化学の、最も基礎的な事柄について学習します。初歩的な関数や方程式、ベクトル、統計など数学的な基礎、および力の釣り合いや物体の運動、あるいは物質の化学反応など物理・化学の基礎を学習します。そのうえで、建築の専門分野で想定される工学的な問題の初歩を学習します。これらの問題の学習を通して、建築の大まかな工学的輪郭を把握し、より高度な専門科目を学ぶための導入とします

力学とは物体の運動を知ることが目的とする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。物体の代表例は工業材料(歯車やクランクなどの機械部品、あるいは車や人工衛星、建築物などの製品)です。工業材料の静止状態を扱う科目の基礎事項も、そして工業材料が動く状態を扱う科目の基礎事項も、力学 1, 2, 3 という科目で扱います。力学 1, 2, 3 を通して、ベクトルと微分積分を使って力の合成・分解、運動方程式を解いて物体の運動を決定する手順、エネルギー保存則など力学の重要事項を学びます。特に大切なのは、『運動方程式は微分方程式であり、それを満たす解(関数)が運動を表す』という点です。その具体例として、放物運動、円運動、バネの力による単振動、摩擦がある場合の減衰振動、周期的な外力が働く場合の強制振動など、工業材料の動きを理解する上で重要な運動を扱います。さらに、振動の応用として理解できる波動の基礎事項も力学 3 で学びます。

② 学修到達目標

工学基礎系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(3) 情報系

①教育内容

高度情報通信社会ということばやインターネットに代表されるように近年の情報化の進展は著しく、21 世紀の社会においては、一人ひとりが、情報の発信・収集・活用・伝達を効率よく実践できる情報活用能力を身につけることが必要です。このような時代には乗り遅れないように、大学4年間に於ける皆さんの情報活用能力の育成を目的として、専門基礎科目群のなかで情報系科目を設けています。

1年次に、電子メールやインターネット、基本ソフトウェア(ワープロ、表計算、作図用 2 次元CAD)の操作といった基本的な情報の活用方法を体験し、情報処理の原理や仕組みを理解できるようになっています。また 2 年次以降は 3 次元 CAD や画像処理、プレゼンテーションの技法など、建築の現場で使われるより高度な情報活用技術や、さまざまな調査分析などに活用できる統計処理の手法について学びます。

② 学修到達目標

情報系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(4) 基礎数学セミナー・基礎理科セミナー

ア [数学関係科目](基礎数学セミナー)

基礎数学セミナーでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ [物理・化学関係科目](基礎理科セミナー)

大学で学ぶ科目の中には、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナーでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

4.3 専門科目群

専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目と卒業研究からなります。図1にあげた各専門科目がどのようにつながっているか、それらの学習順序がどのようになっているかを図3に示します。教育目標を達成するために、建築学科建築専攻では全般的にわかりやすい授業に努めるとともに、体感型・演習型授業を重視し、「読む・聴く」ことで覚えるよりも、まず「体験・実行」して理解できるようにしています。また、授業のなかで学生自らが考えた案を地域社会に提案する機会を設け、社会貢献へのモチベーションと自信を育てます。これらを通じて論理的思考や問題発見能力を培い、総合力を高めます。

これらの科目について教育内容の概要を以下に説明します。なお、各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかは、後述の(4)に具体的にまとめています。

(1) 基幹科目

基幹科目は、入門的・基礎的な専門知識を学ぶ必修科目と選択科目からなります。

①必修科目 必修科目では、入門的・基礎的な専門知識を学びます。

建築・インテリア入門セミナー

建築およびインテリアを学ぶ為の動機づけ科目です。

力と形演習、構造力学1、構造力学2、コンクリート系構造、鋼構造

いずれも建築物を設計・施工・管理するときに必ず必要になる基礎力学を学びます。

建築構法、建築材料、構造・材料実験

建築の様々な構法の詳細や、建築の材料として用いられる鉄、コンクリート、木材などの化学的・力学的特徴を学びます。

建築・インテリア図法実習1、建築・インテリア図法実習2

建築図面の表現方法や透視図など、建築設計を進める上で不可欠な製図の基礎を学びます。

建築計画1、建築計画2、建築設計1、建築設計2、建築設計3、建築法規

建築設計の進め方を学習するとともに、建築設計に必要な基礎知識を学びます。

建築遺産A、建築遺産B

日本や西洋の建築の歴史を学びます。

環境工学1、環境工学2、環境工学3、建築設備

各環境要素について、諸問題や評価方法などを学習し、建築環境工学と建築設備の基礎を学びます。

②選択基幹科目

建築環境材料

環境負荷を軽減するための建築材料に関する知識を学びます。

造形基礎実習、建築デザイン基礎実習

あらゆるスケッチを通して、造形感覚を養います。また建築デザインの基礎的な実習を行います。

建築の仕組み

木造を中心とした建築物の構築方法を、体験的かつ総合的に学びます。

骨組の解析法

不静定の骨組みの解法であるたわみ角法やコンピュータによる解析を学びます。

②展開科目 2年次後期以降に配当されている展開科目はすべて選択科目です。

エンジニアリング、デザインの二つの系に分類しています。卒業後の進路(進学、就職)を想定して、履修できるようになっています。

二つの系の教育内容は以下のとおりです。

エンジニアリング系：振動と塑性解析、力とデザイン、構造設計演習、鉄筋コンクリート構造演習、維持・保全工学、建築生産1、建築生産2、建築測量学同実習（計9科目）

建築産業の現場において技術的諸問題を容易に解決し、業務を円滑に遂行できる能力をそなえた技術者、また社会に根ざした技術者となることをめざしている皆さんに必要な科目です。建設業、住宅産業、建材メーカー、構造事務所などに就職して、機能性にすぐれ、安全性がある建築を設計・施工するような仕事に就くために必要な専門知識が修得できるようになっています。

デザイン系：空間文化論、行動空間学、建築企画論、都市計画、まちづくり論、建築設計4、建築設計5、建築デザイン史、建築デザイン論、環境心理学、環境評価演習（計11科目）

「環境」の視点と人間の生活様式、文化的・精神的活動の表現としてのデザインをより専門的に学ぶことができる科目です。設計事務所、インテリア関連、住宅産業、建築設備会社などに就職して、機能的かつ快適で美的感覚に快い刺激を与えてくれる建築物を実現する仕事に就くために、必要な専門知識を修得できるようになっています。

インターンシップ（学外研修）

設計事務所事務所、建材メーカー、ゼネコン・工務店、販売店などの学外企業において建築実務のインターンシップをおこないます。

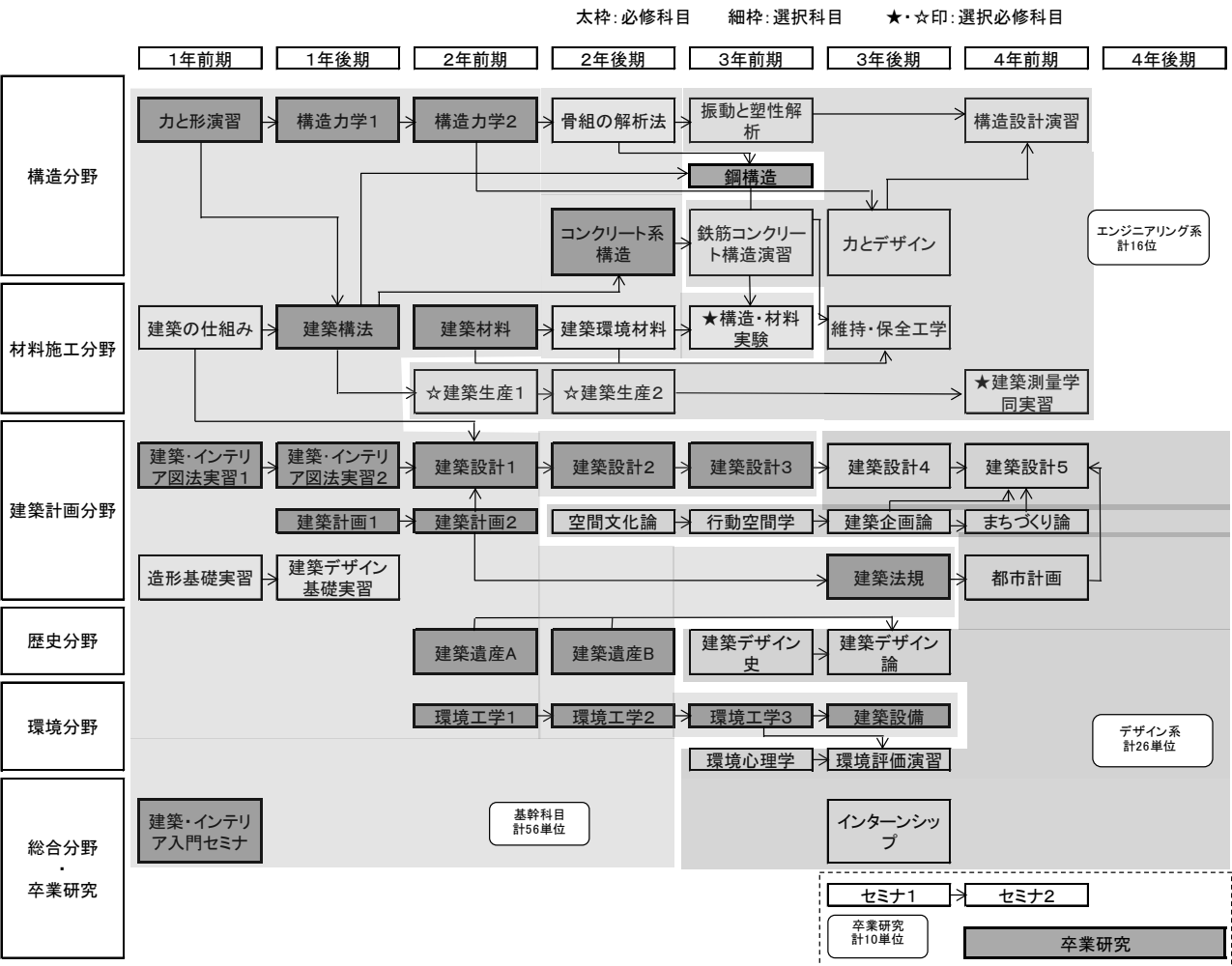


図3：専門科目群のカリキュラム・フローチャート

(3)卒業研究

「卒業研究」に関連する科目は、 세미나1、 세미나2、そして卒業研究からなります。

卒業研究は1年～4年次で履修する専門科目の総括として位置づけられるものです。課題を探索し、組み立て、解決する実践的能力を養います。教員の指導のもとで、各自が研究テーマを決め、研究計画を作り、研究を遂行し、その結果を考察し、これらをまとめ、発表するといふものであり、卒業論文あるいは卒業設計からなります。 세미나1、 세미나2は卒業研究を行うにあたって必要な内容を各自の研究テーマに応じて専門的に学びます。

学習到達目標

4年間の専門教育課程を修めることにより、標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学んで、どのような知識を修得するかを、カリキュラムマップにまとめてあります。

5. 履修モデル

基幹科目で重要なことは建築学を学ぶときに不可欠な基本知識を修得することです。また、展開科目や卒業研究では、卒業後の進路も見据えて、建築学のなかでどの分野に主眼をおいて学習するかを自分自身で考えることが大切です。

履修モデル A および履修モデル B は、卒業後の進路に対応させて、以上に説明した教育課程の授業科目(専門基礎科目群と専門科目群)をどのように学習していくかという履修モデルを例示したものです。

5. 1 エンジニアリング系履修モデルA

このモデルでは、エンジニアリング系の授業科目を選択しています。
卒業後の進路として、建築物の設計や施工に関わる建設業を想定しています。

履修モデルA(エンジニアリング系)									
科目群		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
人間科学 科目群	Aグループ	4	3	1	1				必修9単位
	Bグループ	2	2	4	4	4	2		選択必修18単位
履修単位(想定)		6	5	5	5	4	2	0	0
専門基礎科目群	自然科学系	2 線形代数1	2 線形代数2	2 基礎物理A	2 基礎物理B				
	工学基礎系	2 化学1	2 化学2						
		2 建築基礎数理1	2 建築基礎数理2						
		2 力学1	2 力学2	2 力学3					
専門基礎科目群	情報系	2 数学基礎							
		2 解析学1	2 解析学2	2 解析学3	2 常微分方程式				
						2 建築統計処理			
		1 情報リテラン		2 建築CAD1	2 建築CAD2	2 建築プレゼンテーション演習			
専門科目群	建築計画分野	2 建築・インテリア図法実習1	2 建築・インテリア図法実習2	3 建築設計1	3 建築設計2	3 建築設計3	3 建築設計4	3 建築設計5	
			2 建築計画1	2 建築計画2	2 空間文化論	2 行動空間学	2 建築企画論	2 都市計画	
		2 造形基礎実習	2 建築デザイン基礎実習				2 建築法規	2 まちづくり論	
	歴史分野			2 建築遺産A	2 建築遺産B	2 建築デザイン史	2 建築デザイン論		
	環境分野			2 環境工学1	2 環境工学2	2 環境工学3	2 建築設備		
						2 環境心理学	2 環境評価演習		
	材料施工分野	2 建築の仕組み	2 建築構法	2 建築材料	2 建築環境材料	2 ★構造・材料実験	2 維持・保全工学		
				2 ☆建築生産1	2 ☆建築生産2			2 ★建築測量学同実習	
	構造分野	2 力と形演習	2 構造力学1	2 構造力学2	2 骨組の解析法	2 振動と塑性解析	2 力とデザイン	2 構造設計演習	
						2 鋼構造			
					2 コンクリート系構造	2 鉄筋コンクリート構造演習			
	総合分野・卒業研究	1 建築・インテリア入門 세미나					2 インターンシップ		
							2 세미나1	2 세미나2	
卒業研究		6							
専門履修単位(想定) 内 必修単位数		14 7	12 10	17 15	17 9	17 7	12 4	6 0	6 6 101 58
履修合計		20	17	22	22	21	14	6	6 128
専門系開講単位数		22	22	23	21	23	21	13	6 151

★選択必修(構造・材料実験、建築測量学同実習の2科目から1科目)
☆選択必修(建築生産1、建築生産2の2科目から1科目)

5. 2 デザイン系履修モデルB

このモデルでは、デザイン系の授業科目を選択しています。
卒業後の進路として、設計事務所を想定しています。

履修モデルB(デザイン系)										
科目群		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学 科目群	Aグループ	4	3	1	1				必修9単位 選択必修18単位	
	Bグループ	2	2	4	4	4	2			
履修単位(想定)		6	5	5	5	4	2	0	0	
専門基礎科目群	自然科学系	2 線形代数1	2 線形代数2						専門基礎科目 専門科目 基幹科目 展開科目 必修科目 履修科目	
			2 基礎物理A	2 基礎物理B						
		2 化学1	2 化学2							
		2 建築基礎数理1	2 建築基礎数理2							
	工学基礎系	2 力学1	2 力学2	2 力学3						
		2 数学基礎								
		2 解析学1	2 解析学2	2 解析学3	2 常微分方程式					
						2 建築統計処理				
	情報系	1 情報リテラシ		2 建築CAD1	2 建築CAD2	2 建築プレゼンテーション演習				
専門科目群	建築計画分野	2 建築・インテリア図法実習1	2 建築・インテリア図法実習2	3 建築設計1	3 建築設計2	3 建築設計3	3 建築設計4	3 建築設計5		
			2 建築計画1	2 建築計画2	2 空間文化論	2 行動空間学	2 建築企画論	2 都市計画		
		2 造形基礎実習	2 建築デザイン基礎実習				2 建築法規	2 まちづくり論		
				2 建築遺産A	2 建築遺産B	2 建築デザイン史	2 建築デザイン論			
				2 環境工学1	2 環境工学2	2 環境工学3	2 建築設備			
	歴史分野					2 環境心理学	2 環境評価演習			
	環境分野									
	材料施工分野	2 建築の仕組み	2 建築構法	2 建築材料	2 建築環境材料	2 ★構造・材料実験	2 維持・保全工学			
				2 ☆建築生産1	2 ☆建築生産2			2 ★建築測量学同実習		
	構造分野	2 力と形演習	2 構造力学1	2 構造力学2	2 骨組の解析法	2 振動と塑性解析	2 力とデザイン	2 構造設計演習		
						2 鋼構造				
					2 コンクリート系構造	2 鉄筋コンクリート構造演習				
	総合分野・卒業研究	1 建築・インテリア入門セミナー					2 インターンシップ			
							2 セミナー1	2 セミナー2		
								6 卒業研究		
専門履修単位(想定)内 必修単位数		16 7	12 10	15 15	15 9	15 7	13 4	9 0	6 6	101 58
履修合計		22	17	20	20	19	15	9	6	128
専門系開講単位数		22	22	23	21	23	21	13	6	151

★選択必修(構造・材料実験、建築測量学同実習の2科目から1科目)
☆選択必修(建築生産1、建築生産2の2科目から1科目)

工学部 建築学科 建築専攻 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。
学部の教育研究上の目的
工学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。
学科の教育研究上の目的
工学部建築学科は、建築および都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築・インテリアおよび土木・環境分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1	1 ②	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。 ノートの取り方が効果的にできる。 文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。 図書館の利用法がわかる。 レポートの作成の必要手順が分かる。 基本的なレポートの作成ができる。 プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。 プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。
					授業科目の貢献度	
					TOEICに出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。 英文を読み、その内容を大まかに理解できる。 基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文文でできる限り正確に音読することができる。	
					授業科目の貢献度	
		資格英語1	1	1 ②	この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。
					授業科目の貢献度	
					TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。	
					授業科目の貢献度	
		資格英語2	1	2 ③	この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。
					授業科目の貢献度	
					TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。	
					授業科目の貢献度	
		英語スキル1	1	1 ②	この授業では、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」「食」「芸術」などの大学とつと問題意識を持ち、深く考へてもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペーパーワークやグループワークを通して発語する活動してもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
					授業科目の貢献度	
					授業科目の貢献度	
					授業科目の貢献度	

学科の学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	J. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および施工方法を考えることができる。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。	K. 建築の設計を理解し、必要な知識体系を身につけている。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	L. 建築造形の基礎を身に付け、建築デザインの論理を理解している。さらに文化遺産としての建築の価値を歴史的背景と共に理解している。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	M. 快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用できる。
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	N. 持続可能な社会システムのあり方を理解し、環境負荷の低減や、時間軸を考慮した付加価値の創出、建築文化の継承を行うための手法を身につけている。
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	O. 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組むことができる。
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	P. 状況に応じて知識を多角的に展開させることができる。
	H. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。	Q. 技術的課題に対して誠実かつ真摯な態度で臨むことができる。
	I. 荷重や、建築物がそれを支える仕組みを理解し、地震などの自然界の脅威に抵抗し、機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計ができる。	R. 地域社会のなかで信頼を得ながら技術を適用していくことができる。

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
		10																	10
		10																	10
		10																	10
		10																	10
		10				10													20
		10																	10
		10				10													20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
10	8					2													20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
10	8					2													20
10	6		2			2													20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	自由 選択	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	英語スキル2	1	2 3		この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」、「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
						授業科目の貢献度	
		英語スキル3	1	3 4		「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
						授業科目の貢献度	
		英語スキル4	1	4 5		この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
						授業科目の貢献度	
		実践英語1（資格コース）	1	5		この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙います。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な最低限の語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容をほぼ理解できる。 英文を読み、その内容をほぼ理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文をほぼ正確に音読することができる。
						授業科目の貢献度	
		実践英語1（スキルコース）	1	5		この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。
						授業科目の貢献度	
		実践英語2（資格コース）	1	6		この授業では、前期に開講されている実践英語1（資格コース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙います。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を短時間に解くことができる。 基礎的な英文を正確に音読することができる。
						授業科目の貢献度	
		実践英語2（スキルコース）	1	6		この授業では、前期に開講されている実践英語1（スキルコース）の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができる。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。
						授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
10	8					2													20
10	6		2			2													20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
14	6																		20
12	5					3													20
12	5					3													20
12	5					3													20
12	5					3													20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1															20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	2					6													20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
12	8																		20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科 Aグループ	(健康科学演習A)	1	1	1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
						対人ラリーが20球続けられる。
						フォアハンドロングによるラリーができる。
						バックハンドによるショットのつなぎができる。
						相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
						目的の位置にサーブを打つことができる。
						得点の数え方および審判ができる。
						授業科目の貢献度
	(健康科学演習A)	1	1	1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る
						オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る
						アンダーハンドストロークが出来る
						ネットプレーによるつなぎが出来る
						スマッシュを打つ事が出来る
						目的の位置にサーブを打つ事が出来る
						得点の数え方および審判が出来る
						授業科目の貢献度
	(健康科学演習A)	1	1	1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
						フォアハンドストロークによるラリーができる。
						フォアハンドストロークを打つことができる。
						フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
						バックハンドボレーを打つことができる。
						アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
						得点の数え方および審判ができる
						授業科目の貢献度
	(サッカー・フットサル)	1	1	1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。
						自分の体と向きあうことができた。
						ゴール型スポーツの構造を理解できた。
						サッカー・フットサルのルールを理解できた。
						授業科目の貢献度
	(健康科学演習B)	1	2	2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
						対人ラリーが20球続けられる。
						フォアハンドロングによるラリーができる。
						バックハンドによるショットのつなぎができる。
						相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。
						目的の位置にサーブを打つことができる。
						得点の数え方および審判ができる。
						授業科目の貢献度
	(健康科学演習B)	1	2	2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る
						オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る
						アンダーハンドストロークが出来る
						ネットプレーによるつなぎが出来る
						スマッシュを打つ事が出来る
						目的の位置にサーブを打つ事が出来る
						得点の数え方および審判が出来る
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																		
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合 計
		20																20
		15																15
		10																10
		10																10
		10																10
		15																15
					20													20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20																20
		15																15
		10																10
		10																10
		10																10
		15																15
					20													20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20																20
		15																15
		10																10
		10																10
		10																10
		15																15
					20													20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		30																30
		30																30
					20													20
					20													20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20																20
		15																15
		10																10
		10																10
		10																10
		15																15
					20													20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20																20
		15																15
		10																10
		10																10
		10																10
		15																15
					20													20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	開講 期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択	自由	
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (保健体育系)	1	2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。
		健康科学演習B (サッカー・フットサル)	1	2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	授業科目の貢献度 積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 ゴール型スポーツの構造を理解できた。 サッカー・フットサルのルールを理解できた。
		日本文学A	2	3 5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	授業科目の貢献度 叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や評述できる。 題材を批評的に検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して文章にまとめる。 文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追究する力を養う。 日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
		日本文学B	2	4 6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	授業科目の貢献度 叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や評述できる。 題材を多角的に検討して自分の考えを持ち、課題に応じて自分の考えを表現する。 文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追究する力を養う。 日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。
	Bグループ	外国文学A	2	1 3 5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	授業科目の貢献度 活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。 文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。 自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。 文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。
		外国文学B	2	2 4 6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	授業科目の貢献度 活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。 文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。 文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。 文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。
		哲学A	2	1 3 5	西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。	授業科目の貢献度 プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。 デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。 啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。 西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。 知的リフレッシュメントを味わうことができる。
						授業科目の貢献度

[illegible]

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	哲学B	2	2 4 6		モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。
							哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。
							「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。
							おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。
							自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。
							授業科目の貢献度
		文化人類学A	2	3 5		さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。
							様々な文化を比較することができる。
							習慣の意味が理解できる。
							形のないものの価値について考えることができる。
							現代社会がかかえる問題点について考えることができる。
							授業科目の貢献度
		文化人類学B	2	4 6		文化事象を歴史的に捉え、変化すると変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かにについて理解できる。
							文化について様々な考え方が理解できる。
							現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。
							「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。
							コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。
							授業科目の貢献度
		歴史学A	2	1 3 5		日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
							国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。
							西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。
							歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
							過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
							授業科目の貢献度
		歴史学B	2	2 4 6		近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。
							東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。
							日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。
							歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
							過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。
							授業科目の貢献度
		心理学A	2	1 3 5		人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。
							学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。
							欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。
							発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。
							パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。
							授業科目の貢献度
		心理学B	2	2 4 6		他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。
							人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。
							対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。
							集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。
							集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	教育原理	2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。
						近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
						教育を成り立たせる要素についてそれぞれに関連づけながら理解することができる。
						近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。
						授業科目の貢献度
		教育心理学	2	3	「教育」という営みをとらえてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのある様を捉えたと同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、認知・感情・社会性（愛着など）の発達の様相を把握することができる。
						発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代の問題について心理学的な観点から考察することができる。
						条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。
						欲求と適応（／不適応）との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。
						動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。
		政治学A	2	1 3 5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。
						生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。
						「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。
						授業科目の貢献度
						政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。
		政治学B	2	2 4 6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	自由民主主義の理論と政治制度について理解する。
						議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。
						政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。
						自分と政治との関わりについて考えることができる。
						授業科目の貢献度
		経済学A	2	1 3 5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。
						現代民主主義の理論的特徴について理解する。
						現代民主主義の制度的特徴について理解する。
						現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。
						授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
		経済学B	2	2 4 6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通して、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	授業科目の貢献度
						経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。
						資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。
						経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。
						経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。
		法学A	2	3 5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
						授業科目の貢献度
						経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。
						日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。
						歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。
		法学B	2	3 5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	日本の企業の特性・構造について説明できる。
						講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
						授業科目の貢献度
						授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。
						授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。

学科（専攻）の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合計	
				30															30
				30															30
				20															20
				20															20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10																10
			10	10															20
			10																10
			10																10
			10																10
			10	10															20
			10																10
0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20																20
			20																20
			20																20
			20																20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			30																30
			10																10
			20																20
			10																10
			30																30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			30																30
			20																20
			10																10
			10																10
			30																30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			25																25
			25																25
			25																25
			25																25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	B グループ	法学B	2	4・6	日本国憲法とその特質について、事例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。
						日本国憲法の基本原則が説明できる。
						日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。
						基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。
						表現の自由とその制約原理を説明できる。
						違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
						授業科目の貢献度
		社会学A	2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ
						方法論的個人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケム）の違いを理解する
						社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる
						「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する
						東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること
						授業科目の貢献度
		社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。
						個人化という概念について説明できるようになること。
						ネオリベラリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。
						非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。
						グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。
						授業科目の貢献度
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。
						母集団及び標本抽出について理解する。
						量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイニ乗検定）について理解する。
						統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。
						質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。
						授業科目の貢献度
		社会調査の方法B	2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。
						統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。
						疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。
						調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。
						質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。
						授業科目の貢献度
		現代社会論A	2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。
						担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。
						授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。
						地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
						授業科目の貢献度
		現代社会論B	2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する
						担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する
						授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる
						地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる
						授業科目の貢献度

学科（専攻）の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
				10															10
				20															20
				20															20
				20															20
				20															20
				10															10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30															30
				20															20
				20															20
				10															10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
				30															30
				10															10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
				20															20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25															25
				25															25
				25															25
				25															25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25															25
				25															25
				25															25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	教育社会学	2	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会的なものの方によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
		健康科学A	2	1・3・5	2	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。 発育の仕組みについて理解できる。 年齢とからだの関係について理解できる。 健康について理解できる。 健康に対する取り組みについて理解できる。
		健康科学B	2	2・4・6	2	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。 人体の構造について理解できる。 障害について理解できる。 傷害について理解できる。 体力について理解できる。
		認知科学A	2	3・5	3	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。 知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。 認知機能の神経機構について説明することができる。 ヒューマンエラーの原因について説明することができる。 認知科学の哲学的な問題を説明することができる。
		認知科学B	2	4・6	4	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。 我々が当たり前に行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。 記憶のメカニズムや分類について説明することができる。 自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。 ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。 ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる。
		環境科学A	2	3・5	3	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。 地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。 地球環境問題対策を理解する。 地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。
		環境科学B	2	4・6	4	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総合的に理解する。 太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。 生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。 生命の生存条件を理解する。
		自然科学概論A	2	1・3・5	1	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。 科学リテラシーの必要性を理解できる。 近代科学の特徴を説明できる。 20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。 科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
							0
							10
							20
							10
							30
							30
							100
							20
							20
							20

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
				25															25
				25															25
				25															25
				25															25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10															10
			10	10															20
			10	10															10
		10	10	10															30
		10	10	10															30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10	10	10															20
		10	10	10															20
			10	10															20
			10	10															20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
				20															20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10															10
				20															20
				20															20
				20															20
				10															10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
				40															40
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
				40															40
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20															20
				20															20
				20															20
				20															20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修 選択 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	B グループ	自然科学概論B	2	2・4・6		化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。 物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。 現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。 現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。 未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわりあいを展望できる。
		生物学A	2	3・5		生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	授業科目の貢献度 生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。 生物多様性のメカニズムについて説明することができる。 遺伝的多様性の必要性について説明することができる。 生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。 環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。
		生物学B	2	4・6		動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	授業科目の貢献度 進化学理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。 ヒトの進化史を大まかに説明することができる。 自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。 性選択と自然選択の違いについて説明することができる。 脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。
		地球科学A	2	3・5		地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	授業科目の貢献度 与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。 最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。 鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。 水の特性から生物に与える影響が理解できる。 古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。 地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。
		地球科学B	2	4・6		地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	授業科目の貢献度 天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。 様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。 地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。 日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。 太陽系の進化から地球の未来像を把握する。
		リベラルアーツ 特別講義	2	集中講義 9月		現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	授業科目の貢献度 理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。 問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。 国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
		リベラルアーツ 実践演習A	2	3・5		少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	授業科目の貢献度 学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。 諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。 課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。 自らの課題に対して解決まで導くことができる。 コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。

学科(専攻)の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
					20														20
					20														20
					20														20
					20														20
					20														20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20														20
					20														20
					20														20
					20														20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20														20
					20														20
					20														20
					20														20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20														20
					20														20
					20														20
					20														20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				40															40
				20															20
					40														40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20														20
					20														20
					20														20
					20														20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	リベラルアーツ実践演習B	2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。 諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。 課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。 自らの課題に対して解決まで導くことができる。 コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
		教養総合講座A	2	3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠な CSR (Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任) を共に考える。	授業科目の貢献度 現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。 これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
		教養総合講座B	2	4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	授業科目の貢献度 現代の問題群を整理することができる。 ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。 課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。 問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
	自然科学系	線形代数1	2	1	行列式および行列の基本性質、演算方法を学び、1次連立方程式の解法に应用する。複素数の基本事項についても学ぶ。	授業科目の貢献度 行列式の基本性質を説明できる。 余因子展開を使って行列式の計算ができる。 行列の和・積等の計算ができる。 逆行列を求めることができる。 クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。 複素数の極形式を使った計算ができる。
		線形代数2	2	2	高等学校で学んだベクトルをさらに詳しく学んだ後、新しくベクトルの外積を学び、空間図形の解析に应用する。	授業科目の貢献度 空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。 内積の定義および演算法則を説明できる。 成分計算を含め内積を使った計算ができる。 外積の基本性質を説明できる。 成分による外積の計算ができる。 外積を使って、三角形の面積および四面体の体積を計算できる。 固有直文行列によって表される空間の回転の回転軸を求めることができる。
		基礎物理A	2	2	この科目では、電気と磁気を統一的に理解する物理学の一分野である「電磁気学」の基礎を扱います。電磁気学は電流や電気回路などを理解する基礎理論であり、重要な科目です。この科目では、まず「電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること」や「電流は電子の集団の運動であること」など基本的な自然界の姿を学びます。次に、これを踏まえて、電場（電界）や磁場（磁界）といった「場」という概念を学びます。なお、電磁気学の内容には力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	授業科目の貢献度 電気力と電場の関係を説明できる。 電位と静電エネルギーを説明できる。 ミクロな視点で電流を説明できる。 ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。 電流が作る磁場（磁束密度）を図を使って説明できる。
		基礎物理B	2	3	基礎物理Bでは熱力学の基礎事項を学びます。この科目では、まず、熱の微視的な理解つまり「物質の構成要素（電子や分子など）の乱雑な運動のエネルギーとして熱が理解できること」を学びます。次に、これを踏まえて、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則を学びます。熱力学は、専門科目においてエンジン燃料の燃焼効率、発電機や電池の発電効率などを考える際の基礎となる重要な科目です。なお、熱力学の内容には、力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。熱力学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	授業科目の貢献度 熱力学第一法則を説明できる。 気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。 熱と温度の違いを説明できる。 p-Vグラフと仕事の関係を説明できる。

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
						20													20
						20													20
						20													20
						20													20
						20													20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
						20													20
						20													20
						20													20
						40													40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
						20													20
						20													20
						20													20
						40													40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					12		4												16
					10		8												18
					7		8												15
					9		9												18
					6		10												16
					8		9												17
0	0	0	0	0	0	52	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
						14		4											18
						8		2											10
						4		8											12
						8		2											10
						4		8											12
						8		10											18
						10		10											20
0	0	0	0	0	0	56	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
						8		12											20
						8		12											20
						8		12											20
						8		12											20
0	0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
						10		15											25
						10		15											25
						10		15											25
						10		15											25
0	0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群	自然科学系	化学1	2	1	元素、原子、分子、化学結合について学び、物質のなりたち、ありようの根源を修得する。	原子量、分子量、式量の関係を理解し、物質量(モル)についての計算ができる
						原子の構造を説明できる
						元素の周期律と電子配置を説明できる
						化学結合と分子の形の関連を理解し、物質の性質の説明に活用できる
						元素の分類と代表的な単体・化合物の性質を説明できる
						原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる
	自然科学系	化学2	2	2	原子、分子の集団として振る舞い、および性質を修得する。	溶液の濃度の計算ができ、性質との関係を説明できる
						授業科目の貢献度
						化学反応の速度と活性化エネルギーの関係を説明できる
						化学平衡について理解し、平衡反応を平衡定数から説明できる
						化学反応とエネルギー、エントロピーの関係を説明できる
						酸化還元反応の本質を理解し、電池のしくみなどの説明に活用できる
	工学基礎系	数学基礎	2	1 2	高等学校の数学から大学の数学への橋渡しとして、三角関数、指数関数、対数関数、集合と命題について学ぶ。	代表的な有機化合物の構造と性質を説明できる
						生命と化学との関係を説明できる
						環境と化学との関係を説明できる
						授業科目の貢献度
						複素数の範囲で、2次方程式および高次方程式を解ける。
						分数式の四則計算と部分分数分解ができる。
	工学基礎系	解析学1	2	1 2	1変数関数の微分積分の基礎理論と基礎的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の計算に慣れるようにする。	弧度法による一般角の三角関数を説明できる。
						三角関数の加法定理を用いた計算ができる。
						指数法則を理解し、それを用いた計算ができる。
						対数の性質を理解し、それを用いた計算ができる。
						集合の共通部分と合併集合を理解し、公式を用いた要素の個数の計算ができる。
						授業科目の貢献度
	工学基礎系	解析学2	2	2 3	1変数関数の微分積分の応用理論と発展的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の応用に慣れるようにする。	導関数の基本公式(定数倍・四則・合成関数)を説明できる。
						基本関数(べき関数、指数・対数関数、三角・逆三角関数)の微分公式を説明できる。
						初等関数を微分できる。
						不定積分の意味および基本関数の不定積分公式を説明できる。
						置換積分法と部分積分法を理解し、それらを活用できる。
						定積分と不定積分の関係を理解し、基本的な定積分の計算ができる。
	工学基礎系	解析学3	2	3 4	解析学1, 2を基にして、多変数関数(主に2変数関数)の微分、積分法の基礎理論とその応用について学ぶ。	授業科目の貢献度
						ライプニッツの公式を理解し、それを積の高階微分計算に活用できる。
						ロピタルの定理を理解し、それを不定形の極限計算に活用できる。
						テーラーの定理を理解し、指数関数・三角関数のテーラー展開がかかる。
						有理関数の不定積分を計算できる。
						無理関数・三角関数を含む不定積分を置換積分法を用いて計算できる。

学科(専攻)の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合計	
					10		10												20
					10		10												20
					10														10
					10		10												20
					10														10
					10														10
					10														10
0	0	0	0	0	70	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					10														10
					10		10												20
					10														10
					10		10												20
					10		10												20
					5		5												10
					5		5												10
0	0	0	0	0	60	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					11		5												16
					6		10												16
					5		7												12
					9		5												14
					6		8												14
					6		6												12
					12		4												16
0	0	0	0	0	55	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					10		7												17
					9		6												15
					8		10												18
					8		6												14
					6		12												18
					6		12												18
0	0	0	0	0	47	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					8		7												15
					9		6												15
					10		8												18
					7		13												20
					6		12												18
					6		8												14
0	0	0	0	0	46	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					8		6												14
					6		10												16
					6		14												20
					10		5												15
					5		15												20
					6		9												15
0	0	0	0	0	41	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	開講 期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群	工学基礎系	常微分方程式	2	4 5	解析学 1, 2 の基本事項を基にして、1 変数関数の微分方程式である常微分方程式の解法について学ぶ。	常微分方程式とその解の意味を説明できる。
						変数分離形および同次形の微分方程式が解ける。
						1 階線形および完全微分形の微分方程式が解ける。
						斉次線形微分方程式の解の性質を説明できる。
						定数係数斉次線形微分方程式が解ける。
						2 階非斉次線形微分方程式の特殊解の求めかたを理解し、それを応用できる。
						授業科目の貢献度
		力学 1	2	1 2	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学 1 という科目の大きな目標は、 (1) ベクトルに基づいて、力の合成・分解を正確に理解する (2) 微分積分に基づいて、運動方程式を解くことで物体の運動が決定できることを学ぶ この科目は、工学系の専門科目（例えば工業力学や構造力学などの名称の科目）につながる重要な科目です。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	力の合成・分解をベクトルを使って説明できる。
						基本的な力（重力、ばねの力、摩擦力）の法則を説明できる。
		力学 2	2	2	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学 2 という科目の大きな目標は、 (1) 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーを正しく理解する (2) 力学 1 よりも複雑な運動（特に単振動）を、運動方程式を解いて理解する この二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	仕事の定義を説明できる。
						力学的エネルギー保存則を説明できる。
						単振動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。
力学 3	2	3	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学 3 という科目の大きな目標は、 (1) 力学 2 よりも高度なレベルでベクトルと微分積分を使って、物体の運動（減衰・強制振動、振り子運動）を理解する (2) 振動現象を基に理解できる波動現象の基礎事項を理解する この二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	円運動と、慣性力としての遠心力を説明できる。		
				力のモーメントの定義を説明できる。		
				授業科目の貢献度		
建築基礎数理 1	2	1	建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習する。建築基礎数理 1 では、数値的な基礎をまず学習し、これをもちて建築で実際に必要となる計算に応用する。建築面積や容積などの基本数値の算出から、各種設計に必要な基礎的な値の求め方を学習する。併せて、建築の基礎的な内容も習得する。	運動方程式に基づいて、減衰振動と強制振動を説明できる。		
				角運動量と力のモーメントの定義をベクトルの外積を使って説明できる。		
				単振り子の運動方程式を解き、その運動を説明できる。		
建築基礎数理 2	2	2	建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習する。建築基礎数理 2 では、数値的な基礎をまず学習し、これをもちて建築で実際に必要となる計算に応用する。力学の応用から摩擦や仕事を基本的に理解する。続いて、建築で必要な化学や環境問題を学習する。	波動の基本的な性質を説明できる。		
				授業科目の貢献度		
				授業科目の貢献度		
建築基礎数理 2	2	2	建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習する。建築基礎数理 2 では、数値的な基礎をまず学習し、これをもちて建築で実際に必要となる計算に応用する。力学の応用から摩擦や仕事を基本的に理解する。続いて、建築で必要な化学や環境問題を学習する。	いろいろな関数をグラフに表すことができる。		
				行列式の基本的な性質が説明できる。		
				三角関数や比例を用いて建物の面積や各部の寸法を求めることができる。		
建築基礎数理 2	2	2	建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習する。建築基礎数理 2 では、数値的な基礎をまず学習し、これをもちて建築で実際に必要となる計算に応用する。力学の応用から摩擦や仕事を基本的に理解する。続いて、建築で必要な化学や環境問題を学習する。	立体の計算ができ、建物の容積等を求めることができる。		
				データの統計的な処理ができる。		
				授業科目の貢献度		
建築基礎数理 2	2	2	建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習する。建築基礎数理 2 では、数値的な基礎をまず学習し、これをもちて建築で実際に必要となる計算に応用する。力学の応用から摩擦や仕事を基本的に理解する。続いて、建築で必要な化学や環境問題を学習する。	力の釣合を説明できる。		
				運動の状態を説明できる。		
				建築で必要な化学や反応式を理解することができる。		
建築基礎数理 2	2	2	建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習する。建築基礎数理 2 では、数値的な基礎をまず学習し、これをもちて建築で実際に必要となる計算に応用する。力学の応用から摩擦や仕事を基本的に理解する。続いて、建築で必要な化学や環境問題を学習する。	建築と環境の問題が説明できる。		
				建築の照明、断熱性などが計算できる。		
				授業科目の貢献度		

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
					9		6												15
					4		12												16
					5		16												21
					10		5												15
					7		10												17
					5		11												16
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					6		14												20
					6		14												20
					6		14												20
					6		14												20
					6		14												20
0	0	0	0	0	30	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					2		18												20
					2		18												20
					2		18												20
					2		18												20
					2		18												20
0	0	0	0	0	10	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					3		23												26
					3		23												26
					2		22												24
					2		22												24
0	0	0	0	0	10	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
							10	10			10								30
							10	10			10								30
							5	5			5								15
							5												5
								10			10								20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	35	0	0	35	0	0	0	0	0	100
							20												20
							20												20
											20								20
											20								20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	60	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群	情報系	情報リテラン	1	1	コンピュータの仕組みや情報伝達方法を知り、電子メール、インターネット、及び基本的なソフトウェアの操作方法を学ぶ。	コンピュータの構成を説明できる。
						ログオン・ログオフ操作ができる。
						電子メールを使いこなすことができる。
						ワープロの各種機能を用いて文章を作成できる。
						表計算ソフトを用いて表作成、表計算をすることができる。
						データを下にグラフを作成することができる。
						プレゼンテーション用ソフトを用いてスライドを作成することができる。
						授業科目の貢献度
		建築CAD1	2	3	2次元CADの基本的な操作方法について学ぶ。	2次元CADソフト「VectorWorks」の各種設定ができる
						2次元CADソフト「VectorWorks」の基本操作ができる
						2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、各種図形を描くことができる
						2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、平面図を描くことができる
						2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、断面図を描くことができる
						授業科目の貢献度
		建築CAD2	2	4	3次元CADの基本的な操作方法について学ぶ。	VectorWorksの3Dコマンドの使用法を習得できる。
						VectorWorksの3Dモデリングの手順を習得できる。
						VectorWorksの各種柱状体、回転体、ブーリアン演算等の3Dコマンドの使用法を習得できる。
						VectorWorksにより具体的な物をモデリングすることができる。
						RenderWorksにより美しいレンダリング処理ができる。
						授業科目の貢献度
		建築プレゼンテーション演習	2	5	ラスター系及びベクター系画像処理ソフトの基本的な操作方法について学ぶ。	「Adobe Photoshop」の基本操作を理解し、画像の加工・処理ができる。
						「Adobe Illustrator」の基本操作を理解し、図形の描画・レイアウトができる。
						建築模型を美しく撮影すること、また写真をPCに取り込み、編集することができる。
						コンセプトを反映させたプレゼンシートを作成することができる。
						プレゼンシートを用いて第三者に的確に意図を伝える発表をすることができる。
						授業科目の貢献度
		建築統計処理	2	5	様々なデータの統計処理手法を学ぶ。	アンケート調査票を作成することができる。
						データの検索、並べ替えができる。
						基本集計ができる。
						クロス集計ができる。
						2つのデータの平均値の差の検定ができる。
						相関関係を求めることができる。
専門科目群	基幹科目	建築インテリア入門セミナー	1	1	「建築・インテリア入門セミナー」は、建築／インテリア専攻の専門課程への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生同士の良好なコミュニケーション形成の場でもあります。授業は前述の主旨を踏まえて、優れた建築実例の見学会や建築専門誌、模型材料の購入先のアドバイスやスポーツを通じたコミュニケーション映画鑑賞による建築の多様性の発見など、体験を重視した授業を行います。	建築／インテリアへの関心、興味を招くことができる。
						学生と教員、学生同士の良好なコミュニケーションを形成することができる。
						大学の施設を有効に活用し、円滑な学生生活を送ることができる。
						有意義な学生生活とするための目標を立てることができる。
						授業科目の貢献度
		建築計画1	2	2	建築の平面や断面を決定するための基本的知識及び住宅と集合住宅の計画的基礎知識を学ぶ。	建築図面にどのようなものがあるか説明できる。
						椅子の基本的な部分の寸法を決めることができる。
						建築の基本的な部分の寸法を決めることができる。
						明治期の武士住宅継承型平面及び大正期の中廊下型平面の特徴を述べるができる。
						2K型平面から3LDK型平面への平面発達史を述べるができる。
						質の時代の住まい例を幾つか述べるができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合計	
															10			10	
															10			10	
															15			15	
															15			15	
															20			20	
															20			20	
															10			10	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	
											20							20	
											20							20	
											20							20	
											20							20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	
											20							20	
											20							20	
											20							20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	
											5			5	5	5		20	
											5			5	5	5		20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	0	10	10	10	0	100	
															15			15	
															10			10	
															10			10	
															15			15	
															20			20	
															15			15	
															15			15	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	
															10	20	20	50	
															10	20		30	
															10			10	
															10			10	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	20	0	100	
											15							15	
											15							15	
											15							20	
											15	5						20	
											15							15	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	10	0	0	0	0	0	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	建築計画2	2	3	小学校、図書館、劇場、事務所、福祉施設等の平面や断面を決定するための基礎知識を学ぶ。	建築言語を理解し、説明することができる。 近代建築・現代建築における主要な建築・建築家を通して建築計画の最新の動向を理解することができる。 多種多様な建築・空間・建築家の事例に触れ、流動的な現代の建築計画に適切である創造力を習得することができる。 各種建物についてその役割（例えば博物館なら収集・保存・研究・展示）を説明できる。 各種建物に必要な機能諸室の役割や規模、および諸室間の関係性を説明できる。
						授業科目の貢献度
						力の釣合いについて説明できる。 単純ばりの反力について説明できる。 トラスの仕組みと部材に働く力について説明できる。 はりに力が作用したときのたわみについて説明できる。 力のモーメントについて説明できる。 力の釣合いから単純な構造の反力を計算で求めることができる。
						授業科目の貢献度
						各種支持状態とそこに生ずる支点反力を理解し、これを求めることができる。 骨組の安定・不安定、静定・不静定の意味を説明できる。 骨組に生ずる応力や変形を説明できる。 静定はりの曲げモーメント分布、せん断力分布を求めることができる。 静定ラーメンの曲げモーメント図、せん断力図、軸方向力図を作図できる。 曲げモーメント図、せん断力図の意味やその相互関係を説明できる。
		構造力学1	2	2	静定ばりおよび静定ラーメンの解法、応力度とひずみ度、断面の性質を学ぶ。	授業科目の貢献度
						静定トラスの解法を理解し、部材応力を求めることができる。 応力度とひずみ度、およびその関係について説明できる。 断面1次モーメント、断面2次モーメントの意味を理解し、これらを算出することができる。 はりの断面に生じる曲げ応力度およびせん断応力度を計算し、断面設計を行うことができる。 はりのたわみを計算できる。 応力法を用いて不静定はりの応力を求めることができる。
						授業科目の貢献度
						たわみ角法の原理が説明でき、基本式を書くことができる。 横移動のない骨組の曲げモーメント、せん断力をたわみ角法で求めることができる。 マトリクス構造解析法の原理を説明できる。 トラス部材の剛性マトリクスについて説明できる。 コンピュータを用いた構造解析の具体的手順について説明できる。
						授業科目の貢献度
		骨組の解析法	2	4	たわみ角法とマトリクス構造解析法の基礎について学ぶ。	たわみ角法の原理が説明でき、基本式を書くことができる。 横移動のない骨組の曲げモーメント、せん断力をたわみ角法で求めることができる。 マトリクス構造解析法の原理を説明できる。 トラス部材の剛性マトリクスについて説明できる。 コンピュータを用いた構造解析の具体的手順について説明できる。
						授業科目の貢献度
						建築物の構造方式の種類と構法が説明できる。 建築物に作用する荷重、外力にはどのようなものがあるか説明できる。 木構造の基本的な説明ができる。 鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造の基本的な説明ができる。 鉄骨構造の基本的な説明ができる。 地質調査の方法を理解し、説明できる。 建築物の各部位の構成について説明できる。
						授業科目の貢献度
						授業科目の貢献度
		建築構法	2	2	建築の構法面を中心に建築を理解するために必要な基本的な知識を学ぶ。	建築物の構造方式の種類と構法が説明できる。 建築物に作用する荷重、外力にはどのようなものがあるか説明できる。 木構造の基本的な説明ができる。 鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造の基本的な説明ができる。 鉄骨構造の基本的な説明ができる。 地質調査の方法を理解し、説明できる。 建築物の各部位の構成について説明できる。
						授業科目の貢献度
						授業科目の貢献度
						授業科目の貢献度
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
										15			5						20
										10			5		5				20
										15					5				20
										20									20
										20									20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	10	0	10	0	0		100
								15											15
								15											15
								15	5										20
								15	5										20
								15											15
								15											15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	10	0	0	0	0	0	0	0		100
								15											15
								15											15
								15											15
								20											20
								20											20
								15											15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0		100
								20											20
								15											15
								15											15
								20											20
								20											20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0		100
								20											20
								20											20
								20											20
								20											20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0		100
								15											15
								15											15
								15											15
								15											15
								15											15
								15											15
								15											15
								15											15
								15											15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	25	0	0	0	0	0	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目 基礎科目	基礎科目	建築材料	2	3	建築材料の木、鉄、コンクリートの性質と用途および特徴について学ぶ。	コンクリート構成材料の性質を説明できる。
						コンクリートの性質を説明できる。
						鉄筋の性質を説明できる。
						構造用材と非構造用材とに分けて、主に構造用材として使用される木の性質を説明できる。
						建築材料関係専門用語 300 語が説明できる。
						授業科目の貢献度
		建築環境材料	2	4	建築に用いられる材料について環境の視点に立ってその特性を学ぶ。	建築材料の環境への影響を説明出来る。
						環境影響評価手法の説明が出来る。
						金属・セラミック・屋根・石材の特性を説明できる。
						高分子材料・塗料・接着剤の特性を説明出来る。
						断熱・防火・防水材料の特性を説明出来る。
						授業科目の貢献度
		構造・材料実験	2	5 6	構造部材およびその構成材料に関する実験を行い、これまで習得している知識と実現象の対応を学ぶ。	歪や変位、荷重の計測方法とその原理を説明できる。
						実験に必要なデータ整理（統計処理）方法について説明できる。
						構造部材とその構成材料の性質を実験結果に基づいて説明できる。
						曲げ部材の平面保持の仮定を実験結果に基づいて説明できる。
						鉄骨トラスの変形や応力における理論と実験の対応関係を説明できる。
						振動学の基礎的事項を実験結果に基づいて説明できる。
		建築法規	2	6	建築に関する代表的法律である都市計画法、建築基準法と建築士制度についての基礎知識を学ぶ。	建築法規の歴史が説明できる。
						法文解釈ができる。
						建築基準法の単体規定が説明できる。
						建築基準法の集団規定が説明できる。
						建築士法について説明できる。
						授業科目の貢献度
		建築・インテリア図法実習1	2	1	建築製図の基礎について、手書きでの線の引き方から正確で綺麗な図面の表現までを学ぶ。	正確に線を引くことができる。
						線の種類とその意味が説明できる。
						表示記号が説明できる。
						図面を手順どおりに描くことができる。
						簡単な透視図を描くことができる。
						授業科目の貢献度
		建築・インテリア図法実習2	2	2	建築作品を一つ選定し、平・立・断面図を描き、模型制作・写真撮影を行い、プレゼンテーションを行う。	壁や柱など建築の基本的な寸法の把握ができる。
						平面図を適切に描くことができる。
						断面図を適切に描くことができる。
						効果的な建築模型を制作できる。
						建築作品の図面や写真を分かりやすく一枚のポスターにまとめ、発表できる。
						授業科目の貢献度
		造形基礎実習	2	1	建築やインテリアの設計・研究をしていくための造形の基礎実習を行う。メモをとるように気軽に形や空間をスケッチできるようにする。	メモをとるように気軽に形や空間をスケッチできる。
						建築写真のコピーをトレース、模写しながら鉛筆描写ができる。
						建築や空間を観察し、特徴をスケッチすることができる。
						建築や空間を想像し、スケッチすることができる。
						人の作品を客観的に評価できる。
						授業科目の貢献度
		建築デザイン基礎実習	2	2	建築のくかたち>や<空間>を把握するために必要な基礎的なトレーニングを、実習を通しておこなう。	形や空間に対する基礎的な理解を実習を通して深める事ができる。
						素材の質感や特性を生かした造形表現ができる。
						コンセプトに応じた形態の発想ができる。
						人の作品を客観的に評価できる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
									20										20
									20										20
									20										20
									20										20
									20										20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
													20						20
									10				10						20
									20										20
									20										20
									20										20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	0	30	0	0	0	0	0	100
								5							5				10
								5	5						5				15
								10	10										20
								10	10										20
								10	10										20
								15											15
0	0	0	0	0	0	0	0	55	35	0	0	0	0	0	10	0	0	0	100
										20									20
										20									20
										20									20
										20									20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
										20									20
										20									20
										20									20
										20				10					30
										20									20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0	10	0	0	0	0	100
										10				10	10				30
										10				10					20
										10				10					20
										10				10					20
																10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	40	10	10	0	0	100
										30									30
										30									30
										20									20
										20									20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	建築設計1	3	3	住宅を設計する際必要となる資料の収集法、立案のプロセス、計画案の表現法等を体験的に学ぶ。	建築の空間に対する簡単な提案ができる
						建築の立面に対する簡単な提案ができる
						戸建て住宅の基本的な計画ができる
						計画内容を建主に分かり易く説明するための図面を描くことができる
						計画内容を自分で描いた図面を使用しながら口頭で分かり易く説明することができる
						授業科目の貢献度
		建築設計2	3	4	展示施設及び寮などの集合体に関する設計資料の収集法、立案のプロセス。計画案の表現方法等体験的に学ぶ。	事例見学調査を通して、展示空間を理解し、特徴を説明することができる。
						小アート・ギャラリーを設計することができる。
						事例見学および紙上調査を通して、学生寮を学び、特徴を説明することができる。
						小規模な学生寮を設計することができる。
						形とコンクリート構造との関係を提案することができる。
						授業科目の貢献度
		建築設計3	3	5	オフィスビル及び小学校に関する設計資料の収集法、立案のプロセス、計画案の表現方法を体験的に学ぶ。	全体テーマとなる「光と風の建築」により、快適な空気環境のあり方を習得することができる。
						事例研究を通じ、「オフィスビル」の空間構成を理解し、さまざまなオフィスビルの特徴を説明できる。
						快適な外部空間をもつ小規模のオフィスビルの設計ができる。
						事例研究を通じ、「小学校」の空間構成を理解し、さまざまなオフィスビルの特徴を説明できる。
						小学校の設計をすることができる。
						授業科目の貢献度
		建築遺産A	2	3	日本建築の特質と構造的特徴を把握し、文化遺産と視点の継承のあり方を考察する。	古建築のもつ文化的価値を理解できる。
						日本建築の構造表現と美的表現の特質を理解できる。
						日本建築の構造部材の名称と役割を説明できる。
						日本建築の軒の深い屋根を支える構造の仕組みが説明できる。
						住宅平面の変化は、生活様式（機能）の変化に対応したものであることが説明できる。
						仏堂平面の拡大は、宗教空間に人間の礼拝空間が入り込むことによって進化したことが説明できる。
		建築遺産B	2	4	西洋の建築について古代オリエント以来 5000 年の歴史を様式にもとづいて講義する。	古典系建築の特徴を説明できる。
						中世系建築の特徴を説明できる。
						古典系建築と中世系建築から、西洋建築史のおおよその流れを述べることができる。
						各様式の相違を理解できる。
						木造とは異なる、石造建築の構造的な特徴を述べることができる。
						授業科目の貢献度
		環境工学1	2	3	室内環境を視覚的に捉えることを学ぶ。	住環境を例に取り上げ、照明視環境の意味と重要性を説明できる。
						照明視環境を語る際に必要な測光量について、その定義を説明できる。
						測光量の間の関係式を理解し、光に関する事象を説明するための計算ができる。
						昼光の重要性を理解し、昼光方式の分類とそれらの特徴を説明できる。
						人工照明、照明設備の分類とそれらの特徴を説明できる。
						照明視環境の量と質に関する評価を、測光量などを用いて説明できる。
		環境工学2	2	4	熱環境および空気環境について学ぶ。	熱の移動形態について説明できる。
						室内の熱環境の評価について説明できる。
						結露のメカニズムとその対策について説明できる。
						室内の空気汚染とその対策について説明できる。
						換気方式の種類について説明できる。
						必要換気量を求めることができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
										15									15
										15									15
										20			10						30
										15									15
										15							10		25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	10	0	0	0	10		100
										5	5								10
										20				5	5	5			35
										5	5								10
										20				5	5	5			35
										10									10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	10	0	0	10	10	10	0		100
													5						5
															5				5
										20				5		5			30
															5				5
										45				5		5			55
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65	0	0	5	10	10	10	0		100
											30								30
											30								30
											10								10
											10								10
											10								10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0		100
											30								30
											30								30
											20								20
											10								10
											10								10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0		100
												15							15
												20							20
												20							20
												15							15
												15							15
												15							15
												15							15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	10	0	0	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目	基幹科目	環境工学Ⅲ	2	5	室内環境を形成する日照・日射について学ぶとともに、建築・都市における音環境の概要を学ぶ。	太陽位置の算出法を説明できる。
						日影曲線を用いて建物の日影図を描くことができる。
						日射の分類を説明できる。
						音の物理量を理解する。
						建築空間において望ましい音響条件について説明できる。
						建築音響計画の具体的手法について説明できる。
						授業科目の貢献度
		建築設備	2	6	建築に導入される空調・給排水・防災・ガス・電気の各設備について学ぶ。	建築設備の目的と分類を説明できる。
						空調の目的と設計目標を説明できる。
						空調設備の各方式の特徴を簡単に説明できる。
						冷暖房熱負荷の概要を説明できる。
						給排水・衛生設備（給排水、衛生器具、消火）に関する重要な事項を説明できる。
						電気設備（照明、動力、変電）に関する重要な項目を説明できる。
						授業科目の貢献度
		建築の仕組み	2	1	木造住宅の仕組み、RC造の原理およびS造の仕組みを模型製作を通して学ぶ。	建築物に作用する荷重、外力を説明できる。
						アーチ、軸組、壁、ブレース、トラス等の構造形式を説明できる。
						模型製作を通じ、平面図、立面図等で建築のしくみを説明できる。
						建築の構成を理解し、建築技術の巧みさが説明できる。
						授業科目の貢献度
		コンクリート系構造	2	4	主要構造であるコンクリート系の各種構造について基本的な性質を学ぶ。	コンクリート・鉄筋材料の特性を説明できる。
						いろいろなコンクリート系構造の種類を挙げ特徴を説明できる。
						鉄筋コンクリート構造の梁・柱の構造計算が出来る。
						コンクリート基礎の構造が説明出来る。
						授業科目の貢献度
		鋼構造	2	5	鋼構造の構造概要と部材および接合部の計算方法を学ぶ。	鋼材の機械的性質を説明できる。
						許容応力度式設計法の内容について説明できる。
						高力ボルト摩擦接合や溶接接合などの接合部の許容耐力を計算することができる。
						引張材の有効断面の考え方を理解し、断面算定を行うことができる。
						圧縮材の座屈長さ、細長比を正しく求め、断面算定を行うことができる。
専門科目	展開科目	インテリア（学外研修）	2	集中	企業におけるインターンシップを行う。	鋼材の座屈長さ、細長比を正しく求め、断面算定を行うことができる。
						軸力と曲げを受ける部材の断面内の応力度分布を理解し、柱材の断面算定を行うことができる。
						授業科目の貢献度
						実習先企業がどのような業務を行っているのか、建築業界の中でどのような位置付けにあるのかを説明できる。
						実務で発生する具体的な問題点の一例とその解決策について説明できる。
		空間文化論	2	4	自然、社会、暮らし、地域、時代の中でどのように空間が芽生え、形成されているのか、主に近代空間文化について、ヒト・モノ・スペース・ココロという関係性を通じ、その背景、周囲性、関係性、特徴について学ぶ。	机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。
						将来の進路に対する自分の考え方を述べるることができる。
						授業科目の貢献度
						自然環境の認識・概要について理解を深めることができる。
						西洋の空間文化の概要について理解を深めることができる。
						日本の空間文化の概要について理解を深めることができる。
						近代の芸術文化の概要について理解を深めることができる。
						近代の建築、インテリア文化の概要について理解を深めることができる。
						授業科目の貢献度

学科（専攻）の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
												15							15
												15							15
												20							20
												15							15
												15							15
												20							20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0		100
												10							10
												15							15
												15							15
												15	5						20
												15	5						20
												15	5						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	15	0	0	0	0		100
								25											25
								25											25
									5	10				5	5	5			30
									10	10									20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	10	15	10	0	0	5	5	5	0		100
									20										20
									25										25
								15	15										30
								15	10										25
0	0	0	0	0	0	0	0	30	70	0	0	0	0	0	0	0	0		100
									10										10
								15											15
								10	5										15
								10	5										15
								10	5										15
0	0	0	0	0	0	0	0	65	35	0	0	0	0	0	0	0	0		100
														10	10				20
														10	10				20
														10	10	10			30
														10	10	10			30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	20	0		100
											10	5			5				20
											10	5			5				20
											10	5			5				20
											10	5			5				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	25	0	0	25	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	行動空間学	2	5	平面や断面の形によって決定される空間形態と人間の行動との対応関係に関する知見を学ぶ。	質の時代に相応しい住宅建築の事例をいくつか説明できる。
						質の時代に相応しい建築史を概観できる。
						我が国の住宅建築を理解する幾つかのキーワードを説明できる。
						建築構造材料の物性と空間の創り方の関係を概観できる。
						建築を単なる物的創造としてではなく、その背景にある課題を通じて視る素養を得る。
						授業科目の貢献度
		建築企画論	2	6	新しい建築形態・空間形態・建築の機能などの生み方に 関する知見を学ぶ。	現代建築の主要な建築家・作品の特徴を独自の視点で説明できる。
						建築分野の様々な職能を理解して説明できる。
						建築のプレゼンテーション手法を理解して説明できる。
						建築に関する企画立案ができる。
						授業科目の貢献度
		都市計画	2	7	都市計画の目的と実現手段を学ぶとともに、実現手段の方法についての知見を学ぶ。	都市計画の目的と実現手段を説明できる。
						街並みを整える方法が説明でき、設計に応用できる。
						緑や水辺を活かす方法を説明でき、設計に応用できる。
						道や広場についての課題が説明でき、設計に応用できる。
						安心して住めるまちについて説明でき、設計に応用できる。
						授業科目の貢献度
		まちづくり論	2	7	日本各地で展開されている村おこし、まちおこし、街づくりの知見を学ぶ。	1) 欧州諸国の都市再生の事例をいくつか説明できる。
						2) 公共交通とまちづくりの事例をいくつか説明できる。
						3) 環境の時代におけるまちづくりを説明できる。
						4) 緑とまちづくりについての事例をいくつか説明できる。
						5) まちづくりについて自分なりの主張を述べることができる。
						授業科目の貢献度
		建築デザイン論	2	6	建築デザインの論理を、具体的な建築作品の分析を通して開示していく。	デザインの発想が論理的なプロセスであることが説明できる。
						デザインの発想において良いコンセプトと悪いコンセプトの区別ができる。
						与えられた課題に対して良いコンセプトをたてることができる。
						建築の空間が特別な「意味」をともなっていることが説明できる。
						空間の特定の「意味」を表現するために、特定の造形が工夫されたことを理解できる。
						授業科目の貢献度
		建築設計4	3	6	コンサート（あるいは演劇）ホール及び集合住宅に関する設計資料の収集法、立案のプロセス、計画案の表現方法を体験的に学ぶ。	課題発見を通じ、一般的な集合住宅の事例をいくつか説明できる。
						課題発見やエスキス（スケッチ）を通じ、比較的新しい集合住宅の事例を説明できる。
						エスキス（スケッチ）を通じ、単に「食寝」するだけでなく、「楽しく暮らす」集合住宅の提案ができる。
						プレゼンチェックを通じ、新しい集合住宅や集住型の提案を分かりやすく説明することができる。
						授業科目の貢献度
						課題発見を通じ、一般的な集合住宅の事例をいくつか説明できる。
		建築設計5	3	7	都市や街に働きかける建築の提案に関する設計資料の収集法、立案のプロセス、計画案の表現方法等を体験的に学ぶ。	都市に働きかけている事例の資料を収集し、他人にわかりやすく説明することができる。
						与えられた立地に、都市や街に働きかける建築を企画することができる。
						自分の企画した内容に即した建築物を設計することができる。
						自分の設計提案を図面や模型で表現することができる。
						自分の設計提案を、聞く人に感動を与えるまでの表現をすることができる。
						授業科目の貢献度
		建築デザイン史	2	5	近代以降現代も含めて、建築や町並みの歴史と価値を理解し、それらを保存・継承・活用していく方法を世界的な視点から考える。	近代主義建築（モダニズム建築）の特徴を説明できる。
						近代主義建築（モダニズム建築）が、第二次大戦後、多様化していった流れを説明できる。
						ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ、フランク・ロイド・ライト、丹下健三など、近代建築の巨匠と呼ばれる建築家の作品の特徴を説明できる。
						日本における近代建築の流れは欧米と違うことを説明できる。
						授業科目の貢献度
						近代主義建築（モダニズム建築）の特徴を説明できる。

学科（専攻）の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
										20									20
										20									20
										20									20
										20									20
										20									20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0		100
										10	10		10						30
										15			10						25
										20									20
										25									25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	10	0	20	0	0	0	0		100
										20									20
										15			5						20
										15			5						20
										15			5						20
										15			5						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	20	0	0	0	0		100
										15			5						20
										15			5						20
										15			5						20
										15			5						20
										15				5					20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	20	0	5	0	0		100
											30								30
											20								20
											20								20
											20								20
											10								10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0		100
													5		5				10
										5			5						10
										40				10					50
										20							10		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65	0	0	10	10	5	0	10		100
										10									10
										10									10
										25				5		5			35
										20				5		5			30
										5					5		5		15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	0	10	5	10	5		100
											25								25
											25								25
											25								25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	カ・デザイン	2	6	テーマに基づいて工作物を製作し、そのデザイン・機能・強度等を具体的に吟味することにより、ものづくりの感覚を養う。	力を合理的に支える仕組みについて説明できる。
						一定の制約の中で強度と剛性を確保するための方法を考えることができる。
						機能と美しさに適切な強度を兼ね備えた工作物を具体的に作ることができる。
						様々な要求を絡めながら形あるものを現実に取り上げることの難しさを理解できる。
						自ら作り上げた工作物の問題点を分析し、次のステップに生かすことができる。
		構造設計演習	2	7	鉄筋コンクリート構造または鋼構造建築物の構造設計を行う。	授業科目の貢献度
						構造設計の基本を理解し、構造計画ができる。
						簡単な略算で柱、はりの断面仮定ができる。
						固定法、D 値法を用いて応力計算ができる。
						S または RC 構造の部材算定ができる。
		維持・保全工学	2	6	建物のライフサイクルの観点から建物の維持保全の基本事項について学ぶ。	構造計算書が作成でき、構造図を書くことができる。
						授業科目の貢献度
						建物のライフサイクルの説明が出来る
						建物の維持保全の必要性が説明出来る
						建物の診断手法について説明できる
		建築生産 1	2	3	建築生産 1 は建築施工計画と工程管理および地下工事について学ぶ。	建物の改修方法について説明できる
						授業科目の貢献度
						請負契約と見積りの方式について説明できる。
						工事計画の手順について説明できる。
						施工管理の基本的事項について説明できる。
		建築生産 2	2	4	建築生産 2 は地上躯体工事・仕上げ工事および設備工事について学ぶ。	工程表の種類・作成手順について説明できる。
						仮設工事計画の基本的事項について説明できる。
						地下工事時の調査について説明できる。
						地下工事の工法について説明できる。
						基礎・杭工事について説明できる。
		建築測量学実習	2	7	建築現場で行われる基礎的な測量の方法を学ぶ。	授業科目の貢献度
						鉄筋コンクリート工事施工計画について説明できる。
						コンクリートの配合計画について説明できる。
						鉄骨工事施工計画について説明できる。
						仕上工事計画の基本事項について説明できる。
		環境心理学	2	5	建築・都市空間においてそれを形成する一要因である色彩について学ぶとともに、それらの空間を物理的ではなく、心理的に捉える手法を学ぶ。	木工事の基本事項について説明できる。
						内装仕上工事の基本的事項について説明できる。
						外装仕上工事の基本的事項について説明できる。
						解体工事工法の概要について説明できる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
								10											10
								5											5
								5						10					15
														10	15	10			35
														10	10	15			35
0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	30	25	25	0		100
								15						10	10				35
								15						5					20
								15											15
								15											15
								75	0	0	0	0	0	15	10	0	0		100
0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	15	10	0	0		100
													10	5	5	5			25
								10	10				5						25
								10	10				5						25
								10	10				5						25
0	0	0	0	0	0	0	0	30	30	0	0	0	25	5	5	5	0		100
														5	5				10
								5	5						5				15
								5	5					5	5				10
														5	5				10
								5	5						5				15
								5	5						5				15
0	0	0	0	0	0	0	0	20	25	0	0	0	0	15	40	0	0		100
								5	5						5				15
									10						5				15
								5	5						5				15
														5	5				10
0	0	0	0	0	0	0	0	15	35	0	0	0	0	15	35	0	0		100
																20			20
																20			20
																20			20
																10			10
																20			20
																10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0		100
													15						15
													40						40
													15						15
													15						15
													15						15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0		100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	環境評価演習	2	6	光・熱・空気環境について実測し評価を行う。	室内の明るさ分布について説明できる。
						建築で使われる色彩について説明できる。
						照明用光源の発光原理について説明できる。
						光源の分光分布および点滅特性について説明できる。
						結露発生の仕組みを説明できる。
						室内における温熱環境評価について説明できる。
						授業科目の貢献度
		振動と塑性解析	2	5	質点系の振動や骨組の塑性設計法について学ぶことができる。	塑性設計の原理を説明できる。
						仮想仕事法を用いて簡単な骨組の塑性耐力を求めることができる。
						振動方程式が書け、説明できる。
						Sin 波地動を受ける 1 質点系の応答解析ができる。
		鉄筋コンクリート構造演習	2	5	鉄筋コンクリート構造について演習を通してその構造計算法を学ぶ。	授業科目の貢献度
						鉄筋コンクリート構造の架構の基本的な説明ができる。
						鉄筋コンクリート造スラブの計算ができる。
						鉄筋コンクリート造の計算ができる。
						鉄筋コンクリート構造の架構の計算ができる。
						プレストレスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造について説明できる。
	卒業研究	ゼミナ1	2	6		授業科目の貢献度
		ゼミナ2	2	7		授業科目の貢献度
	卒業研究		6	7,8		授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	合	計
												15							15
												15							15
												15							15
												20							20
												15							15
												20							20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0		100
								25											25
								25											25
								25											25
								25											25
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0		100
								15	5										20
								15	5										20
								15	5										20
								15	5										20
								20											20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	0		100
														30	40	30			100
																			0
																			0
																			0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	40	30	0		100
														30	40	30			100
																			0
																			0
																			0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	40	30	0		100
																			0
																			0
																			100
																			0
																			0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		100

■ 建築学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考		
						1年次		2年次		3年次		4年次				
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1			2	[2]									
		基礎英語 セミナ			1	2	[2]									
		資格英語 1	1			2	[2]									
		資格英語 2	1				2	[2]								
		英語スキル 1	1			2	[2]									
		英語スキル 2	1				2	[2]								
		英語スキル 3	1					2	[2]							
		英語スキル 4	1						2	[2]						
		実践英語 1		1							2					
		実践英語 2		1								2				
		中国語入門 1			1	2										
		中国語入門 2			1		2									
		健康科学演習 A	1			2										
		健康科学演習 B	1				2									
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	日本文学A		2				2		2		2			
			日本文学B		2						2		2			
			外国文学A		2		2		2		2		2			
			外国文学B		2			2		2		2		2		
			哲学A		2		2		2		2		2			
			哲学B		2			2		2		2		2		
			文化人類学A		2				2		2		2			
			文化人類学B		2					2		2		2		
			歴史学A		2		2		2		2		2			
			歴史学B		2			2		2		2		2		
			心理学A		2		2		2		2		2			
			心理学B		2			2		2		2		2		
			教育原理		2		2									
			教育心理学		2				2							
		国際情勢と社会のしくみ	政治学A		2		2		2		2		2			
			政治学B		2			2		2		2		2		
			経済学A		2		2		2		2		2			
			経済学B		2			2		2		2		2		
			法学A		2				2		2		2			
			法学B		2					2		2		2		
			社会学A		2		2		2		2		2			
			社会学B		2			2		2		2		2		
			社会調査の方法A		2				2		2		2			
			社会調査の方法B		2					2		2		2		
			現代社会論A		2					2		2		2		
			現代社会論B		2						2		2			
		教育社会学		2			2									
		科学的なものの見方と環境問題	健康科学A		2		2		2		2		2			
			健康科学B		2			2		2		2		2		
			認知科学A		2				2		2		2			
			認知科学B		2					2		2		2		
			環境科学A		2				2		2		2			
			環境科学B		2					2		2		2		
自然科学概論A			2		2		2		2		2					
自然科学概論B			2			2		2		2		2				
生物学A			2				2		2		2					
生物学B			2					2		2		2				
地球科学A			2				2		2		2					
地球科学B			2					2		2		2				

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
							1年次		2年次		3年次		4年次		
				必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学科目群	Bグループ	学問への複眼的アプローチ	リベラルアーツ特別講義	2				◎							集中
			リベラルアーツ実践演習A	2				2		2					
			リベラルアーツ実践演習B	2					2		2				
			教養総合講座A	2				2		2					
			教養総合講座B	2					2		2				
合計				9	90	3	32	28 [8]	44 [4]	42 [2]	42 [2]	42			
			102												
(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。															

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
						1年次		2年次		3年次		4年次			
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門基礎科目群	自然科学系	基礎数学セミナ			1	2	[2]							履修者指定	
		基礎理科セミナ			1	2	[2]								
		線形代数 1		2		2									
		線形代数 2		2			2								
		基礎物理 A		2			2								
		基礎物理 B		2				2							
		現代物理学 1			2			2							
		現代物理学 2			2				2						
		化学 1		2		2									
	化学 2		2			2									
	工学基礎系	数学基礎		2		2	(2)								
		解析学 1		2		2	(2)								
		解析学 2		2			2	(2)							
		解析学 3		2				2	(2)						
		常微分方程式		2					2	(2)					
		力学 1		2		2	[2]								
		力学 2		2			2								
		力学 3		2				2							
		建築基礎数理 1	2			2									
	建築基礎数理 2	2				2									
	情報系	情報リテラシ		1		2									
		建築CAD 1	2					2							
		建築CAD 2		2					2						
		建築プレゼンテーション演習		2						2					
		建築統計処理		2						2					
	小計		6	35	6	18	12 (4) [6]	10 (2)	6 (2)	4 (2)					
			47												
専門科目群	基幹科目	建築・インテリア入門セミナ	1			2									
		建築計画 1	2				2								
		建築計画 2	2					2							
		力と形演習	2			2									
		構造力学 1	2				2								
		構造力学 2	2					2							
		骨組の解析法		2					2						
		建築構法	2				2								
		建築材料	2					2							
		建築環境材料		2					2						
		構造・材料実験		2						4	(4) 2				
		建築法規	2												
		建築・インテリア図法実習 1	2			4									
		建築・インテリア図法実習 2	2				4								
		造形基礎実習		2		4									
		建築デザイン基礎実習		2			4								
		建築設計 1	3					4							
		建築設計 2	3						4						
		建築設計 3	3							4					
		建築遺産 A	2					2							
		建築遺産 B	2						2						
		環境工学 1	2					2							
		環境工学 2	2						2						
		環境工学 3	2							2					
		建築設備	2								2				
		建築の仕組み		2		2									
		コンクリート系構造	2						2						
鋼構造	2							2							

(次ページにつづく)

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
専門科目群	展開科目	インターンシップ（学外研修）		2							◎			集中
		空間文化論		2					2					
		行動空間学		2						2				
		建築企画論		2							2			
		都市計画		2								2		
		まちづくり論		2								2		
		建築デザイン論		2							2			
		建築設計4		3							4			
		建築設計5		3								4		
		建築デザイン史		2						2				
		力とデザイン		2							2			
		構造設計演習		2								2		
		維持・保全工学		2							2			
		建築生産1		2				2						
		建築生産2		2					2					
		建築測量学同実習		2								4		
		環境心理学		2						2				
		環境評価演習		2							2			
	振動と塑性解析		2						2					
	鉄筋コンクリート構造演習		2						2					
	卒業研究	セミナ1		2							2			
		セミナ2		2								2		
		卒業研究	6									◎	◎	
	小計		52	58		14	14	16	18	22	20 (4)	16	0	
			110											
	自由科目	幾何学1			2					2				
		幾何学2			2						2			
数理統計学1				2					2					
数理統計学2				2						2				
応用解析1				2			2							
応用解析2				2				2						
応用解析3				2							2			
応用解析4				2								2		
線形代数3				2							2			
代数系入門				2								2		
工学概論				2					2					
職業指導1				2							2			
職業指導2				2								2		
小計				26			2	2	6	4	6	6		
		26												
合計		58	93	32	32	26 (4) [6]	28 (2)	26 (2)	32 (2)	24 (4)	22	6		
		183												

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。

2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年		必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
22 生	建築学科 建築専攻	卒業要件として認められる単位の うち、100単位以上修得すること。	建築・インテリア入門 세미나	基礎英語 세미나 基礎数学 세미나 基礎理科 세미나
	建築学科 インテリアデザイン専攻			
	建築学科 土木・環境専攻	卒業要件として認められる単位の うち、104単位以上修得すること。	土木・環境入門 세미나	
	建築学科 かおりデザイン専攻	卒業要件として認められる単位の うち、100単位以上修得すること。	かおりデザイン入門 세미나	

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。

注2) 基礎英語セミナー、基礎数学セミナー、基礎理科セミナーの3科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数**

(建築専攻:100 単位、インテリアデザイン専攻:100 単位、土木・環境専攻:104 単位、かおりデザイン専攻:100 単位)
には含まませんが、合格していることが必要です。

＜不合格者＞4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻名	科目群	必要単位数	
22 生	建築学科 各専攻	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
	建築学科 建築専攻	専門基礎科目群	必修科目 6 単位を含め 12 単位以上	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 52 単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の 2 科目から 2 単位 (3)「建築生産 1」「建築生産 2」の 2 科目から 2 単位	
	建築学科 インテリアデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 6 単位を含め 12 単位以上	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 52 単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の 2 科目から 2 単位 (3)「建築生産 1」「建築生産 2」の 2 科目から 2 単位	
	建築学科 土木・環境専攻	専門基礎科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 4 単位を含め 20 単位以上 (2)「化学 1」「力学 1」の 2 科目から 2 単位 (3)「基礎情報処理 A」「基礎情報処理 B」の 2 科目から 2 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	必修科目 36 単位	
	建築学科 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 2 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	必修科目 39 単位	

＜不合格者＞次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

【他学部・他学科履修】

情報学部および工学部の各学科の専門基礎科目群・専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。但し、工学部の各学科の専門基礎科目群・自然科学系および工学基礎系の同一科目名称科目は除く。

(次ページにつづく)

【学科内他専攻履修】

開講科目一覧表における、自専攻に開講していない他専攻科目の単位を修得した場合の取り扱いとは下記のとおりです。

所属学科・専攻名	同一学科内の他の専攻の開講する授業科目の各取扱		
	履修する専攻	履修の取り扱い	修得単位の取扱
建築学科 建築専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は選択科目とする。	12 単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	土木・環境専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	かおりデザイン専攻		
建築学科 インテリアデザイン専攻	建築専攻	授業科目の区分は選択科目とする。	12 単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	土木・環境専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	かおりデザイン専攻		
建築学科 土木・環境専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	建築専攻		
	かおりデザイン専攻		
建築学科 かおりデザイン専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	建築専攻		
	土木・環境専攻		

先修条件について

学科共通

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件（「先修条件」）がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	学科・専攻	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
			科目名	期	必選	科目名	期	必選
22 生	建築学科 建築専攻 インテリアデザイン専攻 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
	建築学科 土木・環境専攻	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
			CAD 演習 1	3	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選
			CAD 演習 2	4	選	CAD 演習 1	3	選
			応用数学	4	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選
			GIS基礎	5	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選
						CAD 演習 1	3	選
			GIS演習	6	選	GIS基礎	5	選
			VR 演習	6	選	CAD 演習 2	4	選
			応用情報処理	5	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選
	建築学科 土木・環境専攻	専門科目群	地盤工学 2	3	必	基礎数学 세미나	1[2]	自
						基礎理科 세미나	1[2]	自
			流れ学 1	3	必	基礎数学 세미나	1[2]	自
						基礎理科 세미나	1[2]	自
			構造解析学	3	選	土木構造力学	2[3]	必
			まちづくりデザイン実習	5	選	地域・都市計画	4	選
			輸送システム	4	選	交通計画	3	選